

平成20年度病害虫発生予報第3号(6月予報)

今月のトピックス

<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>

イネヨトウ(さとうきび・水稻)

学名: *Sesamia inferens*

被害圃場



成虫



幼虫



蛹

生態と被害

沖縄では年6～7世代を重ね、幼虫は5月と9～10月に発生が多い。1雌当たり400～700卵を産卵(25条件下)し、ふ化幼虫は集団で葉鞘内を食害後、2～3齢になると分散する。幼虫は5～7齢になるものもあり、茎や葉鞘内で繭を作り蛹化する。幼虫は茎に食入し、さとうきびでは、生育初期に芯枯れを生じさせ、生育後期では台風等による折損や赤腐病の発生を助長する。水稻では白穂の原因となる。

予報の見方

- 1) 発生予察情報は、前月の調査に基づき発生程度が「並」以上の病害虫を中心に掲載しています。「やや少」以下の病害虫については通常掲載していません。
- 2) 「発生程度」は平年との比較を示しています。そのため、毎年その月で高い数値が続いた場合には、その月の「発生程度」は密度が高くても「並」として発表されます。前月との多少の比較はグラフを参考にしてください。

平成20年5月30日
沖縄県病害虫防除技術センター